

64. F 12
(64 F 114.1)

特許庁
実用新案公報

実用新案出願公告
昭39-9272
公告 昭39. 4. 11
(全2頁)

自動噴霧装置

実願 昭35-63064
出願日 昭35. 12. 26
考案者 池谷大正
東京都中野区野方町1の589
出願人 東洋エアゾール工業株式会社
東京都大田区原町43の2
代表者 高崎達之助

図面の簡単な説明

第1図は本案による自動噴霧装置の部分断面図を示す。第2図は噴射目的物容器と噴射剤容器とを一体に固定せしめる二連ハンガーの平面図を示す。第3図は本案の噴射剤を噴出せしめるバルブ体の断面図を示す。

考案の詳細な説明

本案は液体噴射目的物、例えば塗料等を液化ガスを噴射剤として自動的に噴霧せしめる自動噴霧装置に関するもので、従来のエアゾール方式とは異り、噴射剤および噴射目的物を呉った容器に入れさらに各々を取り変え可能とし使用便利にしたものである。

噴射目的物および噴射剤を分離したタイプの自動噴霧装置においては、噴射目的物容器と噴射剤容器は固定され、取り変え不可能であるかまたは噴射剤容器に取り付けられたバルブ体と容器とは分離出来ず、噴射前のみを取り変える事は不可能である。

本案は上記の点に改良を加えたものである。即ち、第2図に示すとおり背面にて連結せしめた二連ハンガーを用いて噴射目的物容器および噴射剤容器を連結固定せしめ取り外しを可能とし、さらに各容器は蓋体および噴射剤用噴射バルブと連結固定する事により、取り外しを可能としたものである。

図面について説明すると、第1図は本案による自動噴霧装置の正面図を示すもので、1は噴射剤容器、2は噴射目的物容器、3は噴射剤噴出量可変バルブ、4は噴射剤導管、5は噴射剤噴出ノズル、6は噴射目的物吸上げノズル、7は同吸上げパイプ、8は噴射目的物容器蓋体、9はノズル固

定子、10は噴射量調節子、11は噴射剤噴出嘴を各々示し、12は第2図に示すとおり二連ハンガーを示す。

次に噴射機構について説明すれば、容器1に容れられた液化ガスの気相部分は、噴射バルブ3の噴射量調節子10に通り、螺旋部aによって上下運動するニードル部bと容器1の蓋体13の中央突出部dの上面に同ニードルbによって穿たれた調節孔eとによって流量を調節され、噴出嘴11により導管4を通りノズル5より噴射される。公知のごとく、ノズル5の先端附近は、噴射剤の噴射力により減圧され從つて噴射目的物容器2内の目的物はパイプ7を通して吸上げされ、噴射剤によって噴霧される。噴射目的物は螺旋部cにより蓋体に固定される。fは同容器内への空気流入孔を示す。さらに噴射バルブについて詳細に説明すれば容器1の蓋体13の中央突出部の側壁dは螺旋部を形成し、同突出部の上面は比較的弱く製作し、バルブを取り付ける事によりニードルbにより調節孔eを穿たれるものである。バルブの本体はハシギング14を介して、螺旋部dによって気密に固定される。15はニードルを気密に摺動せしめるハシギングを示す。バルブ本体が固定されたならば、調節子10を閉口方向に回転する事によりニードルbは下降し、蓋体13の中央突出部の上面は調節孔eを穿たれ、同時にニードルbの凸面に対応するニードル凹面を形成し調節部が造られる。噴射を行う場合、調節子10を閉口方向に回転せしめる事により上記調節部は開口し、噴射剤は同調節部により流量を調節されながら噴出嘴11を通り導管を介してノズル5より噴出される。從つて調節子10の回転量により噴射剤の噴射量は任意に変え得るものである。

以上説明したことく本案は螺旋部によって噴射剤および噴射目的物容器をバルブおよび蓋体に固着して取り変え可能とし、さらに両者を背面にて連結された二連ハンガーによって固定してなる自動噴霧装置である。

実用新案登録請求の範囲

本文および図面で示したことく、噴射目的物と噴射剤との容器を分離した自動噴霧装置において噴射剤容器頭部に設けられた噴射バルブと同容器とは螺旋されて取り変え可能とし、さらに同容器

蓋体の一点を噴射バルブに配されたニードルによって対応すべきニードル凹面を穿ち、流量調節部を形成し噴射剤の流出量を任意調節可能ならしめ

噴射剤容器と噴射目的物容器とは背面にて連結された二連ハンガーによって固定された自動噴霧装置の構造。

